

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	EISUみらい塾		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 8日		2026年 1月 23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	2025年 12月 8日		2025年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	〈 職員の強みを活かしたチーム支援 〉 一人ひとりの発達や状況を踏まえ、職員間で共通認識を図りながら連携して支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「個別支援計画」作成時には、目標設定や最適な支援内容について職員間で意見を出し合い、丁寧に検討している。</li> <li>・中間評価やモニタリングにおいて改善点を職員全員で協議し、より良い支援につなげるための準備を分担して行い、講師にも周知している。</li> <li>・「個別支援計画」の内容を迅速に確認できるよう、各療育ボックスのファイル表紙に明示している。</li> <li>・1対1の個別支援であるため、継続性を確保できるよう当日の担当者が次回の支援内容を準備している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間評価やモニタリングについて、時間的な余裕を確保し、より丁寧な検討が行える体制を整えていく。</li> <li>・講師にも支援方法の提案や検討に参画してもらい、多角的な視点を取り入れていく。</li> <li>・現在作成しているワークシート等について、内容を精査しながら継続的に改善を図っていく。</li> <li>・研修や事例検討を通して、支援の専門性向上に努めている。</li> <li>・個々の特性に応じた環境調整や支援方法について、さらに具体的な検討を重ねていく。</li> </ul>
2	〈 企画・運営力 〉 年中行事や保護者会、特設行事などを充実した内容とするため、職員間で協議しながら企画・運営を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年中行事に合わせてミニイベントを企画し、所内の装飾を行うなど、子どもが季節を感じながら楽しく過ごせるよう工夫している。</li> <li>・保護者会ではテーマを設定し、ワークショップ形式を取り入れるなど、保護者同士が交流できる機会となるよう工夫している。</li> <li>・特設行事については、開所以来毎回異なる内容を企画し、子ども・兄弟姉妹・保護者が参加しやすい内容となるよう工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事の実施時期(曜日・時間帯を含む)を検討・調整し、より多くの参加が得られるよう工夫していく。</li> <li>・支援の様子を参観できる期間を設けるなど、日頃から事業所を身近に感じてもらえる機会をつくり、行事参加につなげていく。</li> <li>・子どもの意見や要望も取り入れながら、特設行事の内容の充実を図っていく。</li> </ul>
3	〈 安心・安全な環境 〉 子どもが安心して利用できる環境について、職員全員で意識を共有し、継続的に整備している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが気持ちよく過ごせるよう、毎朝職員で清掃を行い、環境整備に努めている。</li> <li>・学習や活動に使用する物の置き場を明確にし、ラベリングを行うことで、子どもが自分で出し入れしやすい環境を整えている。</li> <li>・子どもの日々の活動の様子を写真に収め、掲示している。</li> <li>・子どもの作品や制作物を掲示し、最終的にスクラップブックにまとめることで、成長の記録として残している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動教材や備品が増えていく中でも、より一層の整理整頓を意識し、子どもが使いやすい環境を維持できるよう努めていく。</li> <li>・子どもの作品や活動の掲示方法について工夫を重ね、達成感や自己肯定感につながる環境づくりを進めていく。</li> <li>・聴覚過敏など個々の特性に配慮し、安心して過ごせる空間となるよう環境設定の見直しや工夫を行っていく。</li> </ul>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	〈 集団活動の展開 〉 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで支援を行うことが不十分である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1対1の個別支援を基本としているため、集団(小集団)での活動は状況に応じて実施しており、計画的な位置づけが十分とはいえない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1対1の個別支援に加え、小集団活動を取り入れられる体制づくりについて検討を進め、時間配分の再編成を計画的に行っていく。</li> <li>・集団活動の経験が必要と考えられる利用児童生徒については、他事業所との併用や特設行事への参加なども含め、適切な機会の確保を図っていく。</li> </ul>
2	〈 客観的視点 〉 第三者による外部評価を実施し、業務改善につなげる体制が整っていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部評価の実施に関する情報収集や体制整備が進んでいない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他事業所の取り組み等も参考にしながら、外部評価の実施方法や依頼先について情報収集を行い、実施の可能性を含め検討していく。</li> <li>・法人内の他部門(高校)との意見交換等も活用しながら、客観的視点を取り入れる体制づくりを検討していく。</li> </ul>
3	〈 情報発信 〉 ホームページでの情報発信(活動概要・行事予定・自己評価の結果・様々なマニュアル等)が、利用者全体に十分に周知・閲覧されていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信が不定期であるため、閲覧のタイミングが分かりにくく、結果として閲覧機会が定着していない。</li> <li>・掲載内容や更新頻度について、利用者にとって十分とはいえない面がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所内の様子や行事等について、定期的な情報発信が行えるよう体制を整えていく。</li> <li>・ホームページに加え、データ配信等の方法も含め、より確実に情報が届く発信手段を検討していく。</li> </ul>